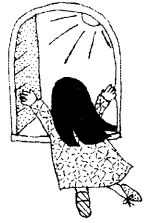


認定特定非営利活動法人

ぶどうのいえだより



編集・発行人：堀内 昭 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-3-12
TEL 03-3818-3362 FAX 03-3818-3392

2010 年

☆☆☆ 15周年記念号 ☆☆☆

ぶどうのいえ 昨日・今日・明日

理事長 堀内 昭

ぶどうのいえは15周年を迎えます。これまでの道のりを辿ると、5 年ごとに大きく3つの時期に分けられると思います。

初期

1995 年 11 月 5 日に「聖テモテ愛の家」として産声をあげました。当時、聖テモテ教会の牧師だった大畑喜道師の強いリーダーシップのもと、役目を終えた女子寮の廃止、施設の決定、建物の改装、募金活動などが瞬く間に進み、難病の子どもと家族の滞在施設が誕生したのです。「愛の家」(現ファミリーハウス)の方々からノウハウを学び、初代理事長大畑喜道師、後援会会長金井努氏と後援会役員、近隣病院の医師を含む拡大運営委員会の委員の方々、“もうひとつの我が家”を支えるボランティアの皆さんが、力を合わせ、文字通り一步一步手探りで議論しながら、作り上げていきました。

その活動を、後援会の個人会員、日立製作所を中心とする日立グループの各社、他企業の法人会員、東京教区の各教会等からのご寄付が後押しして下さったのです。まだ施設も少なく、マスコミにも取り上げられました。

NPO 法人となる

2000 年に特定非営利活動法人(NPO 法人)となりました。この制度ができたことを紹介し、勉強会に参加して法人格取得に尽くされたのは、多田威夫理事と南良夫理事でした。名称は、ニックネームだった「ぶどうのいえ」に変わりました。社会的に開けた活動になり、ご支援を求めやすくなりました。

この頃、当時の厚生省が患児家族の存在に目を向けるようになり、病院の中に滞在施設が作られる例が出てきました。

医療も地方に広がり、滞在施設も増えてきました。ハウス間の情報交換が必要となり、全国会議が開かれるようになりました。

認定 NPO 法人となる

さらに 2005 年に、税法上の免税措置のある認定 NPO 法人になりました。開設から年数が経ち、世間の関心が薄れるにつれ寄付も減少していたので、認定を得られたのは幸いでした。

はじめは2年ごとの更新で、書類関係が煩雑でしたが、昨年から5年ごとになり一息付けるようになりました。昨年から、東京都をはじめいくつかの県で、所得税に加えて住民税にも寄付控除が適用されています。

全国の滞在施設は、最近では 70 以上の団体が 100 あまりのハウスを運営しています。15 年の間にぶどうのいえを取り巻く状況は大きく変わりました。医療体制の進歩と変化、長期入院の減少、地方のハウスの増加などにより利用状況に影響が出ているのは、ぶどうのいえだけではありません。

建物の老朽化による修繕や改修とともに、今後の施設のあり方も検討する時期になりました。“もうひとつの我が家”のコンセプトを大事にしながら、皆様のご支援のもと、活動を続けて参ります。

どうか今後ともぶどうのいえを見守り、ご支援下さるようお願いいたします。

「ぶどうのいえ」開設 15 周年にあたって

元後援会長 金井 務

開設 15 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。「ぶどうのいえ」は色々な人に支えられてきました。場所を提供された教会、設立に努力され、その後その運営に深くかわってこられたボランティアの方々、資金的に協力頂いている個人や企業の方々など多くの人の高い志によって 15 年を過ごすことが出来たと思います。行政も寄付金に税金のかからない法人にするということで協力しています。この方々には関係者として心からお礼を申し上げます。

このような仕事は国や地方の行政によって支えられるのが本来であると思いますが、わが国の社会福祉事業の不完全なところを、個人や企業の善意が支えている形になっています。特に、行政では制度的な福祉事業は出来ませんが、心の問題に立ち至っては全く無力であります。「ぶどうのいえ」は難病に悩む子供を持つご両親の心の癒しに少しでも役立つことを祈っているし、今後ますます大事になってゆくでしょう。

日立は今年創業 100 周年を迎えましたが、組織が 100 年も続けられるのには色々な条件が必要です。もっとも大事なことは創立時の精神がそのまま引き継がれているかであります。

伝統ある学校では創立時の精神がそのまま引き継がれていることはよくご承知の通りであります。これに加えて、「ぶどうのいえ」のような非営利事業では、経営基盤の確立が不可欠です。

日立は多くの社会事業を行っていますが、会社の事業に直接関係しているものは全くなく、寄付を頂いている会社も同じような意識でやって頂いています。しかし、企業は今大変なときを迎えています。最近の世界経済危機で一層のグローバル化の為に、多くの企業は海外に投資をし、海外で多くの仕事をする事が必要になり、国内での雇用も守れなくなってきました。雇用も守れないのに、どこまで寄付を続

けられるか非常に危惧しています。将来の経営基盤の確立のために皆さんに考えて頂きたいと思います。

「ぶどうのいえ」15 周年に当たって

株式会社日立製作所

執行役副社長 八丁地 隆

「ぶどうのいえ」設立 15 周年、おめでとうございます。また、日ごろ「ぶどうのいえ」を支えておられるボランティアの方々をはじめとする、関係各位のご尽力に、心から敬意を表します。

さて、「ぶどうのいえ」の活動には、私たち日立グループも微力ながらご協力させて頂いておりますが、設立から 15 年の道のりは決して平坦ではなかったと思われま。そんな中で、関係各位の労を癒してきたのは、子どもたちやご家族の笑顔、人と人の助け合いなどさまざまだと思いますが、古今亭圓菊師匠一門の「ぶどう寄席」もその一つではなかったか、と考えております。私は「ぶどう寄席」に過去 5 回ほど参加させて頂きましたが、一門の皆さんの心に響く人情話とともに、晴留家しんぷさんの愛情あふれるお話には、「ぶどうのいえ」ならではの深い味わいを感じ、いつも心を打たれます。これからも皆様と「ぶどう寄席」でお会いできますことを楽しみにしております。

さて、近年世間では、耳にしたくないような凄惨な事件や家庭内のトラブルに関するニュースが数多く報じられ、その都度、家族・社会はどうあるべきか、ということが論じられています。しかしながら、私たち一人一人はお互いが助け合わなければ生きていけない、ということは自明の理です。特に難病を抱える子どもたちは日々不安を抱えており、子どもたちにとって支えてくれる家族が近くにいることがどれだけ励みになるか、私が申し上げるまでもないことと思います。これからも「ぶどうのいえ」の活動がさらに発展・継続し、一家族でも多くの方々を支援することができますことを祈り、お祝いの言葉とさせていただきます。

ぶどうのいえ15周年にあたって

認定特定非営利活動法人ファミリーハウス 事務局長 植田洋子

ぶどうのいえ15周年おめでとうございます。

ぶどうのいえが1995年に開設されて以来、私たちはいつもみなさんから、親愛なる隣人としての心強さとやさしさをいただいています。

設立時の大畑司祭と当時の当会の事務局長山本氏の強いきずなのもと、ここから患者さんとその家族のためのハウスの設立をみなさんが願い、尽力されました。

その歴史ある関係のおかげでいつも親戚のようにお付き合いをいただき、東京都内のハウスの数が少なかったころ、ファミリーハウスに宿泊できない利用者さんの件でいつもこころよく相談にものっていただきました。

ハウス運営者は、事務所内に複数のスタッフが常駐できるほど、環境的に恵まれてはいません。私たちもいつも二人程度、あるいはひとりで受付の電話に対応することになります。そのときに、場所は違っていても、同じ思いで利用者さんのことを一緒に考えることができる仲間がいてくださることは本当にありがたいことでした。

数年前、突然ファミリーハウスの受付に「ゆーえす あーみー・ふろむ・いらく」という電話が入り、日本医科大学が患者さんを受け入れるので付き添いの方にハウスの提供をとという問い合わせに、徒歩圏内で通院できるぶどうのいえを紹介させて頂き、その後どうなったかなと気にしておりました。

その後、ぶどうのいえだよりで利用者さんが無事に国にお帰りになったこと。そして、最後の日に病院からハウスまでのすべてのものに(電信柱や、木や草花にも)ありがとう、というきもちだったという報告を読んで、ぶどうのいえの皆様のあたたかな対応があったからこそこの感想であり、こうした活動に一番大切に一番必要なものをぶどうのいえはお持ちなのだ、と思った覚えがあります。

定期的な勉強会、それこそベッドメイキングのやり

方から、医療従事者、患者会など様々な方をお呼びしての勉強会にいつもお誘いいただき、皆様の熱心で真摯な利用者さんへの姿勢に感心したものでした。

今後もよき隣人として、末永くお付き合いいただきますようお願い致します。本当にいつもありがとうございます。ここから感謝申し上げます。

杏林大学 小児科 別所 文雄

「ぶどうのいえ」が設立15周年を迎えたというお知らせを頂きましたが、その設立に当たってはほんのわずかではありますが関与することができたものとして、当時のことを思い浮かべると大変感慨深いものがあります。

聖テモテ教会として、がん等の難病と闘うこどもと家族のための奉仕活動の一つとして、それらの家族のための宿泊施設「愛の家」を作ることが計画され、その運営への参加を打診されるために大畑様が大学に訪ねてこられたことが私とぶどうのいえとの関わりの始まりでした。このような教会の活動の切っ掛けは、故大平睦郎国立がんセンター小児科医長の働きかけであったと伺っておりますが、私の後輩である大平先生は数年前に亡くなられてしまい、一緒に15周年を祝うことができないことが残念です。

当時、都内には既に5つほど「愛の家」がありましたが、私自身は、そのような施設に対する需要がどの程度あるものかいささか不安がないではありませんでした。それは、米国などでは、がんのような難病は特定のセンターとしての機能を持つ大きな施設で診療するのが当然で、そのためには遠方から受診する患者のためにそのような施設が必要なことは確かですが、日本のようなこの病院でもそのような疾患を診療する医療提供体制の下ではそれほど需要が大きくなるのではないかという思いがあったからです。

しかしその後の経過を見てみますと、「ぶどうのいえ」もすぐにほぼ満床の状態になり、需要が意外に多いことを思い知らされました。いまでは、マクドナルドハウスや、ペアレンツハウスなど大規模な宿泊施設が全国的に多数建設されるようになってきていますが、「ぶどうのいえ」はその先駆であり、教会関係者の方々の先見の明に感じ入っております。

ところで、このような宿泊施設は当然子どもやその家族にとって大変意味のあるものですが、私たち医療を提供する側のものにとってはどのような意味を持っているのかということについて少し述べてみたいと思います。先に、米国の医療提供体制と日本のそれとの違いをチラッとのべましたが、米国とは違う日本の医療提供体制が優れているかというそうではなく、医療費の面では米国を見習ってはいけませんが、空間的な面では米国のそれを見習う必要があります。それは、医師ばかりでなく看護師などコメディカルの人々も含めて我々医療提供者にとって、経験が重要だからです。いわゆる難病の多くは希少疾患でもあります。そのような疾患では十分な数の患者を経験するためには患者の分散を避けて集中し、また医療従事者も集中することが必須です。そのために「ぶどうのいえ」のような宿泊施設が重要になります。

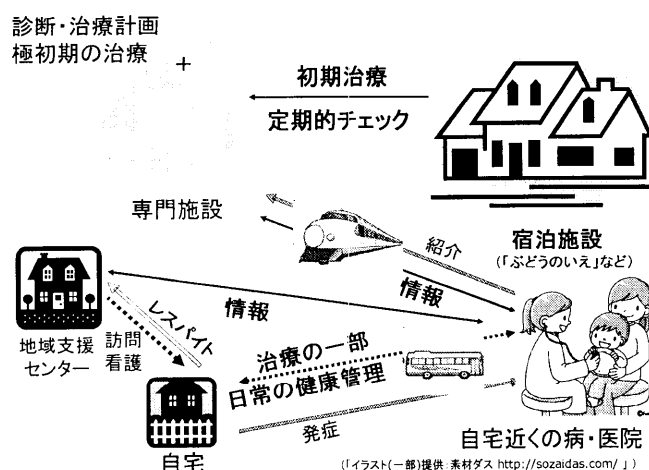
日本の医療施設の特徴は、小規模な施設が多数存在していることです。半数近くの施設では小児科医が2名以下しか勤務していないという統計があります。今度は難病を抱えた患者の数の面から見てみると、例えば白血病について、80%の施設で診る患儿数は年間5名以下で、年間20名以上の白血病患児を診ている施設は235施設中2施設に過ぎません。大学病院に限っても約75%の大学病院では年間5名以下の患儿を診ているに過ぎません。また、関連学会の専門医がいるにもかかわらず、年間に診療している新規白血病患児は2名以下というデータもあります。

このような状況は、1施設が100数十名以上の白血病を診療するのが当然となっている米国を始めとする諸外国とは大きく異なっています。日本のような状況では、白血病のような「がん」のように個人差の大きい疾患について十分な経験を積むこと、すなわち目の前に現れた様々に条件が違う患者に適切に対応

できる知識と技量を蓄えておくことはほとんど不可能です。

この問題の解決のためには、数は少なくとも十分な規模の施設を作り、そこに専門医を多数集めておくこと、すなわち医療提供体制の集約化が必須です。しかし、ここで問題が生じます。このような体制になるということは、患者側からすると身近なところに専門家がおらず、遠くまで出かけなければならなくなることを意味します。残念ながら、医療の質の高さと便利さ・安直さとは相容れないことも多いのです。そこで、次善の策として、「ぶどうのいえ」のような宿泊施設を利用し、どうしても必要なときには、医療を身近に引き寄せるのではなく、質の高い医療の近くに移動し、そこで生活をしていただくと言うこともやむを得ないのではないかと思います。ここで注意していただきたいことは、ここで質の高い医療という場合、医療が高級で、それに従事する医療関係者が優れていると言うわけではないことです。あくまでも専門医療について、専門性が高いと言う意味です。どのような専門医療も専門医療とその専門家だけで成り立つものではありません。病気の人を全人的に、その生活を含めて診る必要があります、この意味で優れた医療施設と医療従事者が必要です。単に役割分担が異なるだけです。

このような、私が望ましいと考える医療環境をわかりやすく表すと、図のようになります。



広域な医療協力体制の概念図

【図の説明】

『体の調子が悪いと言うことで身近な診療所や病院に行く。どうも特殊な病気らしいと言うことで専門施設に紹介される。そこで診察や検査を受け診断が確定される。治療計画がたてられ、当初の治療を受けた後は退院し、その施設の近くの宿泊施設に宿泊しながら初期治療を受ける。安定した段階で自宅に帰り、維持療法や日常の健康管理を最初の診療所や病院で行ってもらふ。治療が順調に進んでいるか、特殊な合併症がないかを診てもらふために年に何回かは専門病院に通う必要があるが、必ずしも入院する必要がない場合には宿泊施設を利用してチェックを受ける。残念ながら治療がうまくいかず、人工呼吸器を付けなければなくなるような重篤な合併症が生じたため自宅療養をしなければならなくなったような場合には、地域の支援センターから訪問看護をうけ、時に家族の休養のために地域支援センターに短期間入院して療養を継続する(レスパイト)。以上が考えられる筋書きです。』

このように、宿泊施設は医療を提供する側にとっても大変重要な意味を持っています。これをさらに生かすために医療側が改善したり整えなければならないこともたくさんあります。身近な医療機関と専門医療機関との連携の促進、外来治療の促進などです。例えば、外来治療の可能性について言いますと、留学していた米国の病院では、白血病であっても入院は治療開始後の数日で、その後は近所の宿泊施設から通いながら外来で抗癌剤の注射を受けていました。米国では入院医療費が高いと言うこともありますが、たとえ初期治療であって診家族と一緒に生活しながら治療を受けられるというのはすばらしいことだと思いました。1年近くも入院していることもまれでない日本の状況とは大きな違いです。しかし、そのためには豊富な経験に基づき、様々な急変が起こりえる初期治療について十分な経験が医療側に求められます。そのような経験のためには集約化が必須であり、そのような医療側の準備が整うにつれ、宿泊施設はますます必要性を増していくものと思われます。

くどくどと長い文章になってしまいましたが、少しでも医療を受けられる方々と支援をされている方々にも

医療の在り方の可能性の一つについてご理解いただくための参考になればと思っております。「ぶどうのいえ」のますますの発展を祈っております。



聖路加国際病院小児総合医療センター長 細谷 亮太

以前、ある地方の大学の医学部に講義をしに行った時の事です。

「何故、先生は小児科医になろうと思ったか」という質問が事前に私のところに送られて来ていました。その医局には、親切な先生がおられ、事前に小児科の若い先生達にアンケートをとってくれていました。

「ご参考までにと思ひまして」と、その結果を講義の前に見せられました。ほとんどの先生が

「子どもが好きだから」

と、答えているのをみて、私はちょっと驚きました。自分がそうではなかったからです。正直言って子どもが大好きというタイプの医学生ではありませんでした。

しかし、過ごしてきた子ども時代がとてもいとおしく思えて、そんな時期を病気と付き合いながら過ごさなければならぬ病気の子供達が、なんとも不憫で、どうにかできないものか、と心の底から思ったのです。

アンケートの解答の中に、それに近い答えがひとつだけ混じっていました。

「人間は物事をなす時に、自分がそのことを面白く思うからやるタイプと、そこにある状況がどうしようもないので、なんとか変革させようと動くタイプに分けられると思います。私は後者です。

子どもが病気になっているのは、なんとかしなければならぬ状況の代表の様な気がして小児科を選んでしまいました。」

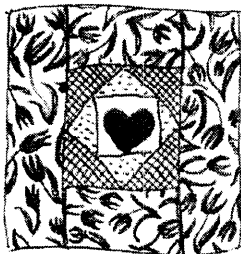
その通りだと共感しました。

大げさに言えば私にとって医者になろうとすることは夢の実現ではなく、志を持つという事だったし、小児科医になることも、世の中から大変な思いをしなければならぬ人を一人でも減らすことができないだろうかというその希いにつながっていました。

だからこそ、以前「ぶどうのいえ」でみなさんに集まっていたいただいて、話をさせてもらった時に、とても平和な気持ちになれたのだと思います。あの建物にも、ボランティアメンバーの方々の雰囲気にも、志が感じられたからです。

同じ志を持つ者が、違う方法で目標に向かっていくことを知ることはとてもうれしいことです。

「ぶどうのいえ」の未来に大きな期待を持ちながら。



ぶどうのいえ創立 15 周年に寄せて

日本医科大学小児科
ぶどうのいえ理事 前田美穂

最初にぶどうのいえについてのお話をしてくださったのは、今は亡き国立がんセンター(現在は国立がん研究センター中央病院)小児科の大平先生でした。その少し前の 2 年間、アメリカのヒューストンにある MD アンダーソンがんセンターで研究生活を送っていたこともあり、アメリカには病院のそばに患者さんやそ

のご家族の滞在施設があることを知っていました。日本ではあまり聞いたことがないけれど、どのようになっているのかな、日本にもあつたらよいのになあと感じておりました。そんなときにわれわれの病院のすぐそばにこういった施設ができることのお話を聞いて、これはすごいことなのではないかと思いました。設立に当たり、テモテ教会の関係者の方をはじめ、多くの方々が何回も会合を持ち、真剣に議論されることにも本当に感激しました。その後今日に至るまで、ぶどうのいえの関連の会議に出席しますといつも、ご出席されている方々のぶどうのいえに対する思いの深さに、これが本当のボランティア精神というものなのかと感慨を新たにいたします。もちろんボランティアとして活動してくださっている多くの方がたのことも本当に感謝しております。私にできることは、皆様のお気持ちに報いることができるように真摯な医療を行うことだと思っています。ぶどうのいえは、私たちの病院から 2,3 分のところにあります。遠方からいらっしゃっている患者さんのご家族が宿泊し、お子様たちの看病をするには最適な場所です。われわれの病院では、小児の患者さんであっても年長になると親御さんが夜間まで病室で付き添いをするにはできない規則があります。病院の中ではなくても我が子のすぐそばにいられるということは、ご両親にとってどんなに心強いことでしょうか。もちろん患者さんご本人にとってもすぐそばに家族がいるという安心感は大変貴重です。また入院中のお子様の付き添いをしていらっしゃるご両親であっても 1 日のうちの少しの時間は多少の息抜きが必要なこともあります。子供たちの好きな食事を自宅からは持ってこれなくてもぶどうのいえに宿泊し、作って病室に持っていらっしゃる親御さんもいらっしゃいます。また病気が治って、その後の定期健診に遠方から見えるときにぶどうのいえに宿泊して、翌日病院を受診される方もいらっしゃいます。そんなときにぶどうのいえは、とても大切な役割をしてくださいます。宿泊されるご家族は、清潔な環境と暖かい雰囲気に皆さん身体だけでなく心が安まるとおっしゃいます。これからも病気の子供たちとそのご家族のために、本当によろしく願いいたします。

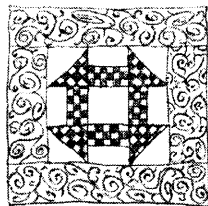
前「ぶどうのいえ」理事長 司祭 大畑 喜道

開設十五年を祝い、お祝い申し上げます。

先日、聖テモテ女子学生寮にいた人たちと話をする機会がありました。毎月の例会で出てくる話は「窓が閉まらない」「カーテンがないので覗かれてしまう」「ベットが壊れた」等々、今になって思えば懐かしい思い出ばかりでした。そのたびごとに、みんなで力を合わせてカーテンを縫ったねとか、紙を窓に貼って着替えをしたとか……。思えば高瀬主教さんが、東京に出てくる女子学生が安心して学生生活を送れる様にと開設した女子寮も、老朽化と個室化を望む学生気質の変化などで大転換を迫られていた時期でもありました。しかし建物を直すにも先立つ物がない、牧師ならどうにかしてくれという無理難題に、学生達のために大工仕事をしたり、築地に買出しに行ったりもしました。女子学生への働きについては終止符を打って新しい事業を展開しなければ、教会がアパート経営をするために存在するのではない、この世に教会が仕えていくためにあるのだという姿勢をもっとも端的に表せるものはないかと考えていた矢先に出会ったのが、今は亡きがんセンターの大平先生と、現在は山谷でホームレスの方々のホスピスをしている山本施設長でした。彼らは大いに悩んでいました。それは病気で苦しむ子ども達とその周りにいる家族のことでした。彼らが苦しみの中にある人々と寄り添い、声を聞いているうちに、日本ではほとんど常識とされていることが間違っているのではないかということでした。私たちは知らず知らずに仕方がない、これは長い間こうしてきたのだから当然だと押し付けてしまします。因果応報であると片付けてしまったり、自分が責任を取りたくないばかりに避けて通ろうとしてしまします。寄り添い続け、責任を全うしようとすればたくさんのリスクが生じる。リスクを恐れていては悲しむ人々を増産するだけだ。しかし彼らから教わったものは、決して諦めないこと。諦めずにいれば人はきっと振り向いて、支える側に回って応援してくれるということでした。アメリカのマクドナルドハウスのこと、ボランティア精神

のこと、彼らは日本でもきっと根付くはずだと熱く語りました。私は自分のことばかり、どうやればリスクを押さえられるかということばかり考えていることに恥ずかしく思いました。

早速、私も行動を開始しました。社会の片隅でうめいている声を聞かないでいる教会ではいけない。一度行動を始めると、思いがけない動きが出てくるものです。アメリカの姉妹教会からは、実際に見にくるようにとの誘いが来たり、賛同して献金を寄せてくれる人も出てきました。具体的な行動には様々な問題が出てきます。女子寮に生活していた学生達にも話をしました。教会の方々にも話して回りました。大畑先生はいつでもマクドナルドハウスの話しかしないと揶揄されることもありました。そのたびに、いつも浮かんでくるのは必死に訴えてきた患者家族たちの顔でした。イエスがこの世に取り残された人と寄り添ったように、あなた方もイエスに倣って生きなさい。奇跡が起こりました。自分で何かをやり遂げようと思っていたときには、仕事に疲れ、大きな壁に前をふさがれてどうしようもない状況でした。しかし決して私たちは独りぼっちではない。みんな連帯できる。多くの方々のご支援が与えられ続けました。思いがけない人から応援の手が差し伸べられていきました。15 周年の記念の時に当たってこのことを伝えたいと思います。これからも大きな困難が待っているかもしれませんが。しかし常にこの世界の小さな声に耳を傾けて、連帯の輪を広げていってください。諦めてはいけません。夢を持ち続ければそれは叶います。柔らかい心で多くの人を包み込み、暖かい愛の交わりを広げていってほしいと願っています。



元「ぶどうのいえ」理事 大畑 敦子

ぶどうのいえ 15 周年本当にごくろうさまです。

一つのことを続けていくということは、すごくエネルギーがいると思います。頭のさがる思いでいっぱいです。いろいろと思い出すこともあります、一つ感じたことを書きたいと思います。昨年、思いがけず主人が一ヶ月ほど入院した時のことです。いつもは病人は私の方で、皆様にお見舞いをいただく立場です。看護する側になるのは初めてでした。なかなか良くならない日が続く、一人、帰りのタクシーの中で涙することも多々ありました。しかし家に帰ると息子や父たちが夕食を作り、待っていてくれました。どんなにありがたかったことか。ちょっとした気遣いが本当に慰めになりました。

子どもがどうなってしまうのだろう、これからどうなるのだろうと思う、ぶどうのいえに滞在されている方々はどんなにか心細いだろう。一人で寒い部屋に帰るよりは、「お帰りなさい」と一言かけてもらえる、ぶどうのいえの存在を改めて大きいなと思いました。どうかいつまでも、そういった一言を大事にして、心の支えとなれるようなぶどうのいえでありますように、心からお祈りいたします

「ぶどうのいえ」15周年おめでとうございます
NPO 法人こども医療支援わらびの会
事務局長 儀間小夜子

「ぶどうのいえ」15周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

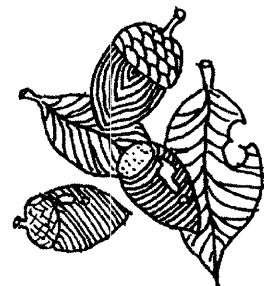
設立から今日までの運営には、並々ならぬご苦労に努力がおありになったことと思います。ファミリーハウス(滞在施設)は現在では、全国に約125施設があり認知度も向上してきたと言われていますが、15年前に難病の子どもたちとその家族のために必要性を認めぶどうのいえを開設され、NPO 法人、その後厳しい審査の結果、認定 NPO 法人格を取得されましたこと

に敬意を表します。そして常に利用者である難病の子どもとその家族のために安定した運営をボランティアの皆様と共に尽力されておられますことに感謝申し上げます。

15年前、沖縄では「こども病院」設立運動が始動した頃です。沖縄の子どもたちが県外に行かずに県内で治療が受けられるようにと病児を抱えた親の団体が一緒になってこども病院設立を県に要請しました。並行して島嶼県である沖縄にはこども病院の近くには、滞在施設が必要であると県に訴え要請を続けました。10年間の様々な運動の結果、こども病院が実現し、その2年後には建設に至るまでに紆余曲折ありましたが念願のファミリーハウス「がじゅまるの家」が開所しました。がじゅまるの家開所に当たり、ぶどうのいえ堀内昭理事長には、大学の調査研究でご来沖のたびにお仕事を終えたあと、お忙しい時間を割いてハウス運営のノウハウを親切丁寧にご指導頂いたことが昨日の様に思い出されます。がじゅまるの家開所後も当ハウスへの支援を惜しみなく下さり、お心遣い頂いておりますことは大変有難く心強く、心から感謝いたしております。

このようにご支援下さることは、ぶどうのいえの関係者の皆様の温かい思いやりと15年間の歩みの中で培われた揺るぎない信念を持っておられることだと強く感じ、感激しました。

当「がじゅまるの家」も多くの皆様に支えて頂き2年が経ちました。ぶどうのいえの皆様のようにホスピタリティーなハウスを目指し利用者のニーズに応えられ、役立つよう努力して参りたいと存じます。今後ともご支援ご指導よろしくお願い申し上げますと、ともに、ぶどうのいえのますますのご発展を祈念申し上げます。



ぶどうのいえは希望の家

守口ぶどうのいえ施設長
守口復活教会牧師 山野上 素充

2004年4月に守口復活教会からぶどうのいえ理事会に宛てお送りした手紙の一部です。

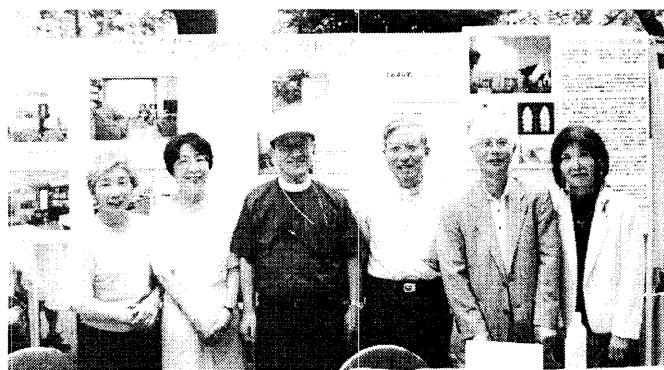
「守口復活教会は、老朽化した牧師館を撤去し、会館と牧師館が一体になった建物を建設する計画を立てましたが、どのような機能を持つものにするのかを議論している中で、当初予定の2階建てを3階建てにし、サポート・ハウスを併設することを決め、大阪教区の承認と支援を得て建設に踏み切ることになりました。現在平面図ができ、建物の仕様を決めて建設業者をあたっている所です。他方、必要経費の一部を教会外からご寄付いただくための趣意書を作成し、発送し終えた所です。

さて、建設が具体化する段階で、この建物および活動の名称を考えておりますが、聖公会の中にある同じ目的の働きを目指すものであることからして、「守口ぶどうのいえ」または「ぶどうのいえ守口」という名前を考えています。すでに活動が定着し、社会的信用を得た名前を、これから建設しようとする建物とその働きのために使わせてくださいと言う、虫のよいお願いですが、なにとぞこの建設と活動が成功するように、「ぶどうのいえ」の名前を使わせていただきたくお願い申し上げます。この名前と活動が全国に広がることを願っています。」

ぶどうのいえは、私たちの願いを快く認めてくださりそれ以来、何も知らない私たちに運営面のノウハウを教えてくださいました。おかげさまで守口ぶどうのいえは、今年11月に5周年を迎えます。教会の会館・牧師館の2階部分にバス・トイレが独立したものが付いている個室5室と、共用のキッチン、リビング・ダイニングルーム、洗濯室をもった守口ぶどうのいえは利用者のみなさんに喜ばれています。一泊2,000円で滞在できるところと病院で聞き、どんな所だろうか不安をもって下見に来る方がときどきおられます。

病院から「下見に行かせてもらいます」との連絡を受けて、待っているとほどなく来られますが、インターフォンを押して、「今夜からお世話になります〇〇です。」と言われます。教会の庭、建物の雰囲気を見て、「下見に来ました」と言わずに「お世話になります」と言われます。これから何年後も同じように、利用したくなる建物、庭を維持することを目標にしています。

家族が入院している人々が心身ともにくつろげることを願いつつ、今日もボランティアの人々がシーツのアイロンがけをして帰って行きました。ぶどうのいえを利用した人々が希望をもって家族を支えることができるように祈りながら働きたいと願っています。



2009年9月日本聖公会宣教150年大会
ぶどうのいえグループポスターセッション

左から山野上由紀子、堀内紀子、大西修大阪教区
主教、山野上素充、堀内昭、岩竹節子

聖路加看護大学 長松康子

ぶどうのいえ15周年をお祝い申し上げます。
いまでこそ、日本にもマクドナルドハウスがたくさん出来ましたが、15年前に医療とは無関係の教会で、小児がんのこどもさんの親御さんを支えるための宿泊施設を運営すると聞いた時はとても驚きました。様々な困難を乗り越えて、開設し15年にわたってたくさん的小児ガン世帯の方々を支えてこられたのも、神様の御心のもとにリーダーシップをとられた大畑ご夫妻と、それを信じて奉仕されたテモテ教会のご尽力と存じます。これまでのご苦勞と試行錯誤を乗り越え、15周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。大好きなぶどうのいえが、これからもずっと多くの方々を支えられますよう、応援しています。

一つの節目、設立 15 年にあたって思う事
ボランティア 小川弥生

難病とされる子どもの家族のための滞在施設として始められた「ぶどうのいえ」は、当初、一般的にあまり知られていなかったものだったと聞いています。営利目的ではなく、発足には数多くの人たちの尽力により運営されてきました。

無事にこの時を迎えられたのは、これまでに関わった大勢の人達の努力があつての事です。私は「ぶどうのいえ」に週一回通い始めて7年、15年の義務教育の半分にも満たない経験です。でも、次の節目を迎えるに備えて、これから何が必要とされているのか、どうすべきかを謙虚に考えなければと感じています。

もう 15 年 まだ 15 年
ボランティア 荒川こずゑ

今年 7 月に二組の懐かしいお顔にお目にかかりました。どちらも 8~9 年振りのぶどうのいえご利用でした。

当時小学校だった男の子は二十才目前の立派な青年となり、入室の手続きの間にお話をなさるお母様の横で伏し目がちにしておしゃやいました。

お部屋をご案内しましたら「あっ！この部屋だ。懐かしいなあ！！」

と青年の大きな声。たまたま 8~9 年前と同じ部屋だったのです。

病との闘い。辛いことばかりが多い日々だったでしょう。「懐かしい」という表現をして下さったことがうれしく、ありがたいと思うと同時に重く受け止めました。

スタッフ皆で日々の出来事を共有しながら、次への一歩を踏み出したい、少しでも良く変化していけるよう協力したいと、今15年を目の前に思っています。

ぶどうのいえ 15 周年に寄せて
オルガニスト 細川久恵

この度、ぶどうのいえが創立 15 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

私は、友人のご紹介により、「ぶどうのいえ 10 周年・チャリティコンサート」(2006年5月27日開催)に、オルガン奏者として出演させていただきました。共演者は、リコーダー奏者の茂垣愛子さんでした。その時はじめて、ぶどうのいえの活動内容や施設、またボランティア・スタッフの方々とふれあい、大変感銘を受けました。根底に流れる愛の精神と、それをさりげなく自然な形で表現されている皆様の優しさは、手作りのぬくもりあるコンサートの企画・運営にも同様に表れておりました。そのおかげで、コンサート当日、満員の聖堂は一体感に満ち、演奏する側と聴く側が同じ「時と場」を共有し、充実感を味わうことが出来ました。

この経験ののち私の中で、親と子、また人と人との繋がりについて深く考えたい、という気持ちが高まりました。そしてそれは、聖テモテ教会でのランチタイム・コンサート「悲しみの聖母」や、自主企画によるオルガン・リサイタル・シリーズの中で、「永遠の母子像」をテーマとする構想などに反映されてきました。

ぶどうのいえとの出会いは、私の音楽活動にとりまして、大きな可能性を広げるきっかけとなりました。改めまして、チャンスをいただきましたことに感謝申し上げます。今後もこの経験の意味を噛みしめ、自分に出来る形でそれを深めてまいりたいと思います。

ぶどうのいえの益々のご発展をお祈りいたします。



15 年間ボランティアをして

ボランティア 岩竹節子

私は 30 代で大病をし、臨死体験をしました。
今振り返ってみると、そのことは神様が私に与えて下さった大きな試練だったと思っています。当時、健康だった私の突然の知らせに田舎の実の両親もとまどい、びっくりしたと聞いていますが、父から試練として受け止めて欲しいと手紙が届きました。それから薄紙をはがすようにゆつくりと回復に向かって歩き始めた時、神様は私に何をしなさいと送り返して下さったのか、ずーっと考えながら生きてきました。3 人の子供たちの結婚、孫の誕生等、目の前に起こるいろいろな出来ごとに戸惑い、挫折しそうになりました。また、15 年前主人を亡くした 2 カ月後のぶどうのいえのオープンと同時にボランティアをしました。

一人ではできなかったことを神様に見守られながら何とかやってこられた、と今は感謝しています。子供達もそれぞれ家庭を持ち離れていきました。今は教会とぶどうのいえが私にとって居心地の良い場所であり、大きなパワーと優しさを与えてくれる場所となっています。

ボランティア 岡田順子

改めて振り返ってみると 15 年という月日はあっという間でした。週一回のボランティアですが、多くの方々と接してきました。「退院が決まりました。」とおっしゃる時の滞在者の方々の笑顔は、いつ見てもうれしいものでした。一方、悲しみに打ちひしがれている姿を見ると、お声をかけることはできませんでした。

私がこの 15 年の間でボランティアとして心がけてきたことは、どんな時でも笑顔で、そして、滞在者の方々のご要望にできるかぎり沿うように、また余計な気を遣わせないようにということでした。もしかしたら、ぶどうのいえのボランティアを通して、私自身が一番大きく成長させてもらったのかもしれない。15 年というひとつの節目に、一度立ち止まって自分の立ち位置をゆつくり確認しようと思っています。

ケーキボランティア 渋谷良子

ぶどうのいえが設立十五周年とうかがい、嬉しく思うと同時に、もうそれほどの時が流れたのかと驚いております。当時、三谷久子、宮尾春世、藤木祥子と私の四人は四十代の家族の一番忙しい年代の真ただ中におりました。時間的にも経済的にも余裕がなく、そんな私たちでも設立のためになんとかお手伝いできないかと考えついたのがケーキ班でした。大好きなケーキ作りでぶどうのいえに関わることができることは楽しく嬉しいことでした。月に一度皆でケーキをつくり、教会員の皆様におもてめいただき、売り上げを献金させていただくこの活動をとおして多くのことを学ぶことができ、心より感謝しております。この小さなグループをこれからも楽しく皆で力を合わせて続けられるよう、ご支援をよろしく願いいたします。

ぶどうのいえの十五周年を心よりお喜び申し上げます。

ぶどうのいえ 15 周年おめでとうございます

お掃除ボランティア 鈴木ゆう子

目白聖公会イクスディアとしてぶどうのいえの会員と掃除奉仕のお仲間に入れて頂きましたのが 1999 年 5 月、早 11 年の歳月が過ぎました。

ぶどうのいえをお尋ねした折、大畑司祭様から運営内容を伺い、当時必要とされていた掃除奉仕に参加することを決めました。

毎月一回 2 時間程度のご奉仕の中で他教会の方と交わりを持つ機会を与えて頂き、楽しい一時を過ごすことができますことに感謝です。

これからもお一人でも多くの方々と共にご奉仕ができますことを願っております。

ありがとうございました

元ボランティア 岸まち子

ぶどうのいえ創立15周年おめでとうございます。私がぶどうのいえの活動に関わらせていただいたのは短い期間でしたが、現在教会の事務室に勤務する関係で、ボランティアの皆さんと今でも週に何回か顔を合わせます。

受付で対応なさっているボランティアさんの姿や、滞在していらした方が笑顔でご自宅にお帰りになる様子などを目にするにつけ、ぶどうのいえの働きと、そこに関わる方たちの想い、病気のお子さんを抱えていらっしゃるご家族の状況に心を馳せます。

私がぶどうのいえのボランティアを始めるきっかけになったのは、学生時代に女子寮で一緒に過ごした友人の誘いでした。「私たちがいた東京聖テモテ教会の女子寮が、ぶどうのいえという施設に変わったのよ。一度ボランティアに来てみない？」という彼女の誘いに子供がまだ小さいので、午前中だけなら・・・と、週に一度通うようになりました。それが11年前のことです。

少しずつ時間も延長できるようになった頃大畑先生から、「各部屋に置く使用説明書のイラストを描いてくれないかなあ」と、アメリカのマグドナルドハウスで使用されている資料をお預かりしました。キャラクターを何にしようかと考え、丁度飼いだめたダックスフンドにヒントを得て、たれ耳の犬に決定。できあがった絵に、ボランティアの皆さんがきれいに色を塗っていただきました。先日お掃除中のお部屋をチラッと覗いたら、まだ使っていてくださっているようで、嬉しくなりました。

嬉しい再会もありました。管理人を退職なさって通いでぶどうのいえにお仕事にいらしている田中さんご夫妻には、女子寮時代にもお世話になっていたのです。いつもお2人仲良くお仕事をなさっていますが、ご主人の孝一さんが療養中。ご回復をお祈りしています。

思い返してみると、ぶどうのいえでの多くの方との出会いが私を育ててくださったのだと思います。ボランティアの仕事について丁寧に教えてくださった岡

田さん、会計のノウハウを教えてくださいました酒巻さん、実務及びパソコンへの伝票入力を根気よく伝授してくださった野辺さん(彼女こそきっかけを作ってくれた友人です)。夏暑く、冬寒い地下室で一緒に頑張ってくださいました三井さん。お名前を挙げればきりがありませんが感謝の一言です。

どうか滞在するご家族の上に豊かな恵みがありますように。笑顔でぶどうのいえを退出できますように。心よりお祈りしております。



元ボランティア 高瀬和子

聖テモテ教会の女子学生寮に代わって、ぶどうのいえが創立されて早や15年になりました。私はその時から少しでもご奉仕がしたいと思い、月曜日ごとに出席し始めました。

その時は堀内紀子さん、荒川こずゑさんとご一緒でした。お二人は会計や受付などをして下さいました。管理人(当時)の田中孝一さん夫妻がベッドメイキングや室内掃除をされていたので、私は髪の毛一本でも落ちていたら入室される方が気分が悪いと思い、室内や洗面所などを点検したり、三階の洗濯機や物干し台などを見て廻りました。

やがて私は留守に高齢の母を一人残しておくことがだんだん出来なくなり、心ならずもご奉仕を中止してしまいました。

今はただぶどうのいえのお働きのために、ひたすらお祈りをさせて頂いております。

「ぶどうのいえ」も、もう創立十五周年になるのですね。長い間親しまれていた女子寮の閉鎖のあと、建物をどの様に使ったら良いかと、随分話し合いましたね。どこからかの情報で愛の家の山本さんのお話を伺ったり、マクドナルドハウスの見学のためアメリカまで行ったり、大畑先生を先頭に皆様一生懸命だったのを、ついこの間の様に覚えておりますが、私は何かお手伝いをと思い乍ら何も出来ないまま傍観していた様です。

発足して試行錯誤の数年を経て今では揺るぎない「ぶどうのいえ」になりました。

ここまで来るには、並々ならぬ苦勞の積み重ねだったことは良く聞いております。

これまで十五年の間には実に多くの方々が利用され、国境を越えてのご利用も度々あり、大きな不安を抱えてらっしゃる方々に対して、ボランティアの誠意のこもった対応に、皆様満足されてお帰りになったように思います。

私も人手の足りない所の補充に少しばかり関わらせていただきましたが、足腰の痛みや夫の病気でここ二年ばかり休んでおります。名前だけの運営委員で細々と繋がっているようなもので何の役にもたっていないのを恥ずかしく思っています・

創立十五周年、ますますのご活躍を！と、他人事の様に言おうと思いましたが、やっぱり、夫の死後時間が充分に使えるようになった今、何とかお手伝いできそうな気がします。

これから手術をして、歩けるように頑張りますので、待って下さいね。



ぶどうのいえ

ぶどうのいえ15周年を迎えるにあたり、最初の数年間、大畑司祭、荒川さん、林さんに助けられこの活動に加わる事ができましたこと、本当に嬉しく思いました。今では仏教、キリスト教、その他の団体の協力で100あまりのハウスが存在するとか。はじめの頃はぶどうのいえが満室で、患者さんのご家族が自分の家で過ごすように滞在してくれたらと雰囲気をつくったり、心配りをしたり(なるべく明るく、でも笑ってばかりはいられない)、地方に住む難病のお子さんを抱える家族に、愛の家の紹介をしたり、特に二千円で宿泊できるということこれが大切。自分なりに少しは役に立てたかなと思っております。

私はぶどうのいえの今の状態を全く知りません。これからのひとつの在り方として、発足当時には新聞報道(記事)に紹介されたことがありました。出来るだけ各メディアにも登場される様になると良いですね。(記事になる話題作り等)

十五周年おめでとうございます

ケーキボランティア 宮尾春世

ぶどうのいえ設立当初、何かお手伝いできればと月一回のお掃除に参加しておりました。

これは事情により行かれなくなりましたが、ケーキを作り教会の方々に買っていただき、その売上をお捧げするという関わりはいまだに続いております。これは、月一回、お菓子作りの好きな仲間で、楽しく、無理せず作って来た事と、そのお菓子を教会の方々が買って下さるというご協力があったからこそ十五年も続いたことを心から感謝いたしております。そのお陰で年に一回、焼くかどうかだった私でも、前日夜、家事が終わってから作り始めたり、以前のように何日も前から構えたりしないで気持ちの上では楽に作れるようになりました。しかし、同じレシピでも出来、不出来があり、焼き菓子も奥が深いことを痛感しております。これからも出来る限り長く続けていきたいと願っております。

未来を思いながら

ボランティア 樋口扶美子

今年も「ぶどうのいえ」の前にいくつもきれいな緑色のブドウの房がゆれる頃となりました。夏休みの度に小学生の娘達を連れ、このブドウ棚の下を通り、「ぶどうのいえ」の扉を開けます。長女は小学一年生から、次女は小学四年生から夏休みを中心に学校が休暇の間、ささやかではありますが小さな働き手となります。

この夏、大学三年生になった長女と小学六年生になった次女の二人が扉を開ける日がありました。気がつくスタッフルームに居りません。二階に参りますと二人でプレイルームのおもちゃや本を片づけています。冷蔵庫の陰から見ていますと、長女が次女にあれこれ伝授している様子です。姉の言葉を背中に受けながら次女が黙々と本の整理をしておりました。

後で長女に

「何を話していたの？」と

尋ねますと、

「ひとつでもいいから、自分でお仕事さがしなさいって言っただけ。」

とぶっきらぼうな長女の答えが返ってきました。

様々な環境、年齢にある多くの方々に見守られながら娘達は人のために役立つことを学ばせていただいております。大変ありがたいことです。これからも「ぶどうのいえ」で心が身体がおぼえたことを幹に大きな枝葉を伸ばしてくれたらと願っております。

そして、私は「ぶどうのいえ」の扉を開ける意味をあらためて考えたいと思います。お客様の大切な時間が少しでも心やすらぐようになるようお願いながら。

ホスピタリティー

ボランティア 堀内紀子

若い頃から、自分に商売の才能のないことはわかっていました。ですから、憧れた職種に「経済・経営関係」はありませんでした。ただ、一つだけ夢として抱いていたのがホテル経営でした。

ホテルという場になぜか強く惹かれました。多くの人が出入りする場で、表立つスタッフと裏方で働くたくさんの人々を統括する。どんなに大変な仕事だろうと思いつつも、夢にすぎないとわかっていても、なお、やってみようと思いつけていました。もとは、アーサー・ヘイリーの小説『ホテル』や曾野綾子の『夜と風の結婚』などを繰り返し読んだことから火が付いたのです。

しばらくその夢を忘れていましたが、ぶどうのいえで、この15年、ボランティアをしていると、11室の小規模ながら業務はほぼホテルと同じですから、いつの間にか夢の一部を実現していたのです。

今では、旅先で滞在するホテルでフロントや従業員の動きが気になります。ゆつたりと滞在を楽しめばよいのですが、意識がいろいろ働いてしまい、テレビの旅番組に出てくるチェックマン(?)のようだと自分でもおかしくなります。旅は、プロからノウハウを学ぶ機会でもあります。

ただ、ぶどうのいえは単なるホテルではありません。24時間対応はないなど、便宜の点では劣りますが、清潔で静かな環境というだけでなく、ここにはホスピタリティーという面で一番大切な「心」が必要だと思うのです。

様々な事情を抱える滞在の方々には同情するのではなく、「さりげなく傍らに立つ」ことができれば、ボランティアとして成熟したと言えるのかなあと、最近、考えています。

ぶどうのいえのパンフレットにある「利用することで心が安らぎ、励まされる場所となることを目的としています」という文章は、とても重いものだと思います。見慣れたパンフレットなので、じっくり見直すことはなかったのですが、15年を振り返り、この言葉をあらためて読むと、私たちはこんなに大変なことを世間に向かって公言していたのだ、と身の縮む思いです。

すべてが手探りだった15年前と今では、取り巻く環境も大きく異なります。しかし、変わらないもの、変わってはいけないものを守っていきたいと思います。

若い日のホテルへの情熱を思い出しながら。

ボランティアで若返ろう

ボランティア 堀 楚乃子

定年退職後、週二日ボランティアに参加し、命と向き合っている方々に少しでもお手伝いができればと、心優しい先輩方についてまわっているうちに、命について学ばせていただき、貴重な経験に感じ入りながら四年目になりました。

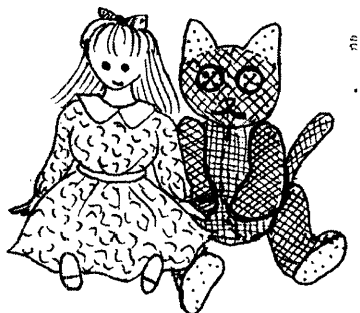
意外なことに、周囲の人から若返ったねと言われ、ますます調子づいてボランティアに通い続けています。認知症になり難いかも知れないという人もいます。

ボランティアに通うと適度な運動になりますし、正午には仲間と会話が弾む昼食をゆったり楽しめます。ボランティアの仕事は空気を読んで工夫して活動し、簡単な計算をし、バザー用等の手芸品を作ったり・・・と脳を活性化させて血流量を増やす要素が多く、判断力のスピードが速い先輩達や記憶力が素晴らしい仲間ばかりなのにはビックリで、なるほどと思いました。

年に数回はボランティア研修会として、超一流医師やカウンセラー、音楽家の講演会があります。この年ではなかなか体験できないことに参加できるのは何よりも幸せです。

このボランティア活動は世のため人のために、もっと前向きに広めていきたいと思っていますところ。ぜひ、一緒にホッコリと有意義な生活を始めましょう。きっとあなたも若返りますよ。

ぶどうのいえはボランティアにとっても大事な第二の我が家なのです



お掃除ボランティア

ボランティア 安井友子

目白聖公会のボランティアグループ、イクスディアで活動しています。仲間に誘われてぶどうのお掃除ボランティアに参加するようになりました。他の参加者の手際の良い仕事ぶりに圧倒されつつおもちゃを拭きながら難病の子、その家族に思いをめぐらせ、自分の家族をふり返ったりしました。

時々のお食事会も楽しみでした。他の教会の教会員の方々(私は教会員ではない)との交流で新しい沢山の発見をしました。そこでボランティアは人のためばかりでなく、自分のためにもなると感じました。

皆楽しそうに色々な活動をなさっていました。

私は今、ぶどうのいえから遠のきました。他の形でボランティアに参加しています。皆様にはなかなかお会いできませんが、あのかのときの楽しそうで軽々としたお働きをお手本として心に留め、色々な活動に携わっていきたいと思っています。

「ぶどうのいえ 15 周年」に寄せて

お掃除ボランティア 横山佳代

ぶどうのいえ 15 周年おめでとうございます。

私とぶどうのいえとの関わりは、毎月第 3 水曜日午前 10 時からのお掃除にあります。

毎月 4～5 人で、キッチン・洗濯場から階段・キッチンとなりのトイレ・プレイルームのおもちゃの消毒・・・と大体家事の延長ですが、利用なさる方が疲れていてお帰りになった時、少しでもホッとできるよう、月 1 回ではありますが、長く関わった事に感謝し、心を込めてお掃除をしています。

どなたかのお役に立つ施設でしたら、いつまでもあり続けてほしいのですが、日本中にこのような施設が出来てきた今、ぶどうのいえは次のお役目を考える時がきているのではないのでしょうか？

「ぶどうのいえ」十五周年に寄せて

ボランティア 松原茂子

東京聖テモテ教会の門を入り、右手のぶどう棚をくぐると小さな文字で「ぶどうのいえ」と書かれた玄関があります。遠方から病院へ入院されたお子様のご家族が滞在なさるひと時の我が家として開かれて、もう十五年になります。皆様からボランティアに如何と誘われ、私にでも何かできることがあるのかしらと軽い気持ちでお仲間に入れていただき、もうそんなに経つたと知って驚きました。北から南からお子様を案じて上京されるご家族の皆様は、心から休んでいただくのがこの「ぶどうのいえ」のモットーです。病人のいるご家庭はとてもつらく大変です。長い療養生活が必要な時はなおさらのことと思います。慣れない東京に来られ、不安で一杯のご家族に安心して休んでいただける施設が「ぶどうのいえ」です。

過日、旅の途中、私が岡山駅から出発する松山行きの列車に乗車した時のことです。マスクをした親子が隣の席にかけました。お子様が背伸びをするので、窓側の席にいた私が「代わりましょうか？」と尋ねると、お母様がマスクをはずし、「ありがとうございます。私がマスクをはずすと子どもも取りたがるので、外に出るときはいつも着けています。」とおっしゃいました。瀬戸大橋を渡りきる間、ずっと海を眺めていたお子様の姿を見て、「今日は飽きずに時間が経ちました。実は二歳まで松山の病院を転々としても病名がわからず、岡山の病院でやっと入院・手術になり、昨年暮れに退院できるようになりました。ただ遠方のため、朝六時に家を出て、十時の診察にやっと・・・、この時間の汽車に乗ると家に帰宅するのが夕方の六時頃になりますが、それでも嬉しいです。」「一日がかりで大変ですね。」と私が話しかけると、「私達は病院近くにアパートを借りて二ヶ月過ごしましたが、私の知人は東京にマクドナルドハウスやぶどうのいえという施設があることを聞き、ぶどうのいえに泊めていただき喜んでいました。」と話されました。お名前をお聞きする暇もなく、下車が近づき、持ち合わせのディズニーのコップを坊やに手渡しして飛び降りました。窓から手を振りながらやっと笑顔を見せた坊やを見て、私は嬉しさがこみ上げてきました。お元気で通院して下さいと祈りな

がら汽車を見送るひと時でした。

これからもぶどうのいえのボランティアを少しでも長く続けることの大切さを感じております。

ボランティアを終える夕方五時に玄関の灯りをとめます。スイッチを入れる時、御子様を病院に残され、疲れてお帰りになるご家族の方々の足元を照らし、ゆっくりこのぶどうのいえでお休みくださいと祈りをこめて帰ります。茜の空に映えるぶどう棚を見上げて元気をいただいております。多くのご支援をいただく皆様またボランティアの皆様へ感謝し、辛いことを受け止めている方々に心からそっと寄り添って、丁寧に生きていけたらと思います。

ボランティアとして思うこと

副理事長 金井玲子

「ぶどうのいえ」も15周年を迎え、今年11月から16年目に入ります。ついこの間のようで、月日のたつのは速いと思うのは、一応健康でいられるからかもしれません。多分病院で一日を過ごさなければならぬ小さなお子さんとそのご家族にとっては、一日はとてつもなく長く感じられるのではないかと察しています。私の夫も5回ほど手術その他で入院した時々につき添って感じたからです。

15年の間に約900家族の方が利用されましたが、入室の時に「今まで普通に生活していたのに突然こういうことになって・・・」「なんでうちの子が・・・」といわれることが多いのです。普通に暮らしているときは、それが当たり前でその有難さを意識しないものだ、自分を振り返って思います。

“普通のことが普通に出来る”生活を第2のわが家を目指している「ぶどうのいえ」で実現するには、何が必要なのか迷いながら、日々模索している私です。それにひきかえ、利用されるご家族は本当に強くそしてやさしい、利用される方同志の思いやり、更にボランティアにまで気を配って下さる心遣いに私たちは支えられ、教えて頂いています。感謝しながら、これからも微力ですが少しでもお役に立てたらと思っています。

世の中に灯をともし

副理事長 横倉 正義

「ぶどうのいえ」が15周年を迎えられたことを、お喜び申し上げます。「ぶどうのいえ」の働きは、主に難病で治療をする子供の保護者・関係者に、低い料金で宿泊施設を提供することを目的にしており、構造的に経常的赤字の経営が避けられないことになります。それを寄付金で補填する仕組みになっているわけですが、日立製作所様を始め多くの方々の長いご支援で、15年もの間順調に働きができたことに心から感謝します。また、比較的早い時期に「認定制度」を申請し、承認を得られたことも、大きな力になりました。思いがけない方々からご寄付の申し込みをいただいたことも、この制度が役に立ったのだと考えられます。

いま世の中は多くの問題を抱えています。それを支える社会的基盤が脆弱になってしまい、解決の目処が立たないことがあり、その原因を政府や行政に押し付け、批判をする声は高く上げても、自分では何もしない人も多いようです。中国の言葉に「一灯照隅 万灯照国」というのがありますが、一人ひとりが自分の足元を照らし、多くの人がそれを行えば国全体が明るくなるという意味だと思っています。この言葉で思い出すのは、エリザベスサンダースホームを立ち上げた澤田美喜さんの言葉です。ご存じのように澤田さんは第二次世界大戦後日本に進駐したアメリカの兵隊と日本の女性との間に生まれ、捨てられて孤児になった子供たちを救うための働きを始めました。そのときに「多くの人がこの現実を見ているが、この子らを救うために実際に動いた人はいない」と話していました。現在も多くの人々（路上生活者、就職が決まらない若者、一人暮らしのお年寄り、等）が苦しんでおります。私たちは自分の出来ることで、世の中に灯をともしることが大切だという考えを強く感じます。

「ぶどうのいえ」の働きも、時代とともに変化していくことが考えられます。医療技術が向上し、難病の治療も向上することが期待されます。しかし、問題が全て解決されることはありません。私たちは、自分のおかれた環境に感謝するとともに、困難に遭遇している方々に私たちがができることで役に立つことを考えるこ

とが大切だと思います。勿論、大きなことは無理だと感じられますが、自分の出来る小さいことを確実に実行することはできると考えます。例えば、ボランティア活動とか募金に協力することはできるのではないのでしょうか。

「ぶどうのいえ」の働きは、多くの方々の募金とボランティアの働きに支えられていることに、関係するものの一人として重ねて感謝申し上げます

15周年を迎えて

理事 鵜飼良機

内閣府ホームページによれば、“認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために設けられている税制上の措置です”また、“「NPO(Non Profit Organization)」とは、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称です”とあります。ご存じのとおり、ぶどうのいえはこの認定NPO法人となっております。

私は2009年まで4年間認定取得後のぶどうのいえ事務局長を務めさせていただいたのですが、日々の運営、経理などとともに、最も重要な仕事のひとつは、毎年の報告書の作成、2度目、3度目の申請等々の“認定”に関する事柄でした。(当時認定有効期限は2年であり、期限が来る前に、次の認定を取得しなければならぬ)

この仕事はかなり難しくて、認定取得後の作業でもこれほど大変であれば、初めて認定取得の手続きをされた方々のご苦勞は如何ばかりだったかと察せられました。といっても、寄附金、経理、公益性等々に関する要件を満たすのが難しいのではなく、それらを満たしていることを書式に従って証明するのが難しいと感ぜられました。一項目の数字を記入するにも然るべき根拠に基づかねばならず、数十枚ある提出書類の一枚を完成するのに1日でできればましな方といえるほどでした。

数々の要件そのもの、つまりはちゃんとしたNPO活動を行っているか、ということに関しては、“ぶどうのいえ”は申し分ない、理想的であると高らかに申し上げたい。これは事務局長を4年間務めさせていただいた私の実感であります。

時代の変遷に対応した、また特にぶどうのいえに関しては、医療技術、医療体制の発展に対応した運営の在り方が模索されなければならないのは当然ですが、様々な社会貢献活動を行うNPO活動は、現在の日本の社会にとってどうしてもなければならないものであると思います。このようなぶどうのいえで皆様のお世話になりながらも務めさせていただいたことは大変幸せであり、今後何かお役に立つことが出来れば有難いことだと存じております。

理事 大隈 廣

「ぶどうのいえ」の活動が開始されてから、間もなく15年が経過します。そしてこの間に、「難病に苦しむ子ども達」を巡る状況には大きな変化も現れているようです。

例えば、「ぶどうのいえ」と同じ目的の滞在施設が各地で増設されています。この近辺でも、2年後には、東京大学病院の隣地に、滞在室20室という規模の大きな「マクドナルドハウス」が新設される予定です。歓迎されるべき動向ですが、近隣であるだけに、私達の「ぶどうのいえ」の活動に大きな影響を与えずにはおかないものと思われます。

また、私達の「ぶどうのいえ」が、「認定特定非営利法人(NPO)」として生まれ変わった現在では、寄付金に対する税制の改正も行われ、こうした活動に積極的な関わり示していただける支援企業の他に、個人の篤志家の皆さんからの寄付金も期待できるようになってきています。難病支援活動に対する社会的な理解が徐々にではあっても、着実に深まってきています。

その一方で、この活動の対象が難病の子供たちから、成人の患者、家族へと支援を要請されるエリアの広がりを見せています。また、難病の治療方法の改

良や発見のスピードと競うかのように、認定される難病も増える兆しがあるようです。これからの「ぶどうのいえ」の活動を維持していくためには、こうした環境変化に柔軟に対応していく必要があるものと思われます。

さて、最終の原稿締め切り日が迫った今も、「うーん」と何度目かのため息を付きながら、これまでの「ぶどうのいえ」の活動に、自分がどれだけ関わってこられたのか、自問自答しています。「これだ！」と言えるものも見当たらず、ただ、「10周年記念事業」の記念誌の編集に携わったくらいで、理事として忸怩たる思いがします。それでも、今後とも施設の維持・管理や営繕を中心に、一兵卒のボランティアとして、「ぶどうのいえ」の活動を支えて行きたいと考えています。

陰光矢のごとし

理事 椎橋 照子

今年は16年ぶりの猛暑となり、9月に入った現在も猛暑日の記録更新を続けています。

「ぶどうのいえ」は今年が15周年。ボランティアを開設時から続けていらっしゃる方が大勢いらっしゃることは感動と驚きです。ずっと支えてくれているキヨさんとコウさんには感謝、感謝。私が参加している金曜日グループはバザー等に出品する為の手作りの品(タオル・ピローカバー・ティッシュケース・アームカバー・小袋 etc)を作成しています。

10周年の記念誌の中にも同じことを書きましたが、「光陰矢のごとし！」暑い、寒いといいながら5年間はあっという間に経ちました。

この5年間に私は二人の孫の「おばあちゃん」となり、自分でも目尻をさげて「バババがね・・・」などと孫に語りかけています。金曜日にミシンや針にふれていのおかげで、孫達にちょっとした小物を作ってあげることができるようになりました。素敵な人生の先輩達の背中を追いつつ、楽しくこれからも「ぶどうのいえ」に参加していきたいと思っています。

またあっという間に過ぎるであろう5年の後、しわが増えるだけでなく、何かうれしくなるような進歩を感じることが出来るのを期待して・・・。

ぶどうのいえ15周年を迎えて

理事 佐藤 武雄

ぶどうのいえが創立され15周年を迎えることになりました。〔ぶどうだより〕が発行された最初の発刊第1号は1995年のクリスマス号で、まだその際は、聖テモテ愛の家としての名前での誕生でした。その後99年には特定非営利活動法人として認定され、難病を抱える家族の滞在施設として対外的にも確固たる地盤を築いてきました。これに直接関係がありませんが、93年9月にテモテ教会と姉妹教会のアメリカ、フロストパークのメリーランド聖ヨハネ教会を当時牧師の大畑司祭と我々の教会メンバーで親善訪問しました。そこではぶどうのいえにも関係するような施設があつて、これからのぶどうのいえの設営に役立つ体験をしたのを覚えています。デイケアセンター、ナーシングホーム、マクドナルドハウス隣接の病院の側のセーラムハウス、がんとエイズ患者の宿泊施設なども訪問し、この施設の有り方、将来の方向などを羨望の眼で見たのを思い出したものでした。

その後05年5月には晴れて東京国税局で認定の許可を受け確固たる道筋で今や認定特定営利活動法人としての新しい出発点ともなりました。

これまでに至る間ぶどうのいえも対外的にも様々な活動が続けられ、ボランティアの活動も種々に亘って広げられ、夫々の持ち分の仕事に成果が窺われ、バザーなども度々開かれます。また、ぶどうのいえチャリティーコンサートや恒例になったチャリティー落語会は最初の代表 大畑喜道司祭の関係から、古今亭圓菊、菊生親子師匠による落語会は96年3月に第一回が最初で05年9月まで10回も公演されました。近隣に対してぶどうのいえのPRをも高めるためにも大いに役立ったと思っています。私も僅か乍らボランティアの一員でこれらの担当と、ぶどうのいえ運営会員の会費や法人関係の会計をやらせて頂いておりました。今現在はボランティアを止めておりますが、以前は前述のように色々の仕事をさせて頂きました。

家が近いので教会には毎日何かと足を運んでおり、時にはぶどうのいえも覗いて半端乍ら何かお手伝い

をするよう心がけています。現在はわずかながら理事の末席を汚しています。少しでもお役に立てればと思う日々であります

理事 鈴木百合子

創立当時まだ数が少なかった「ぶどうのいえ」のような難病の子どもたちと家族のための施設は、この15年の間に行政やさまざまな企業の支援により、ずいぶん増え、認知度もあがりました。個々の条件によって規模や形態や運営の仕方もいろいろですが、「ぶどうのいえ」の良さは何といてもその家庭的な雰囲気にあると思います。11室という規模は、滞在する方がひとつのまとまりとして意識できるぎりぎりの大きさかも知れません。ボランティアの参加の仕方もさまざま、ひとりひとは断片しか関われませんが、そのトータルな働きによってスムーズに運営されています。10年ほど前「ぶどうのいえ」の存在を知って“継続は力なり”をはげみにお手伝いしてきましたが、昨年の夏以来、家の事情でしばしお休みです。多くのことを学ばせていただいたぶどうのいえでの時間は、かけがえのない時間であり、忘れえぬものとなっています。

理事 西田恵子

「ぶどうのいえ」の運営は、滞在費の他、全国からの後援会費・賛助金・個人や企業の寄付金で成り立っています。今年もまたいくつかの助成金をいただき、必要な設備を整えました。活動は、毎日違うボランティアが連絡を密にとりあつて行っています。

多くの方たちの支えがあり、その支えで全てが成り立っているように見えますが、果たしてそうでしょうか？ 本当の支えは、つらい思いをされているご家族の強さ・愛情や優しさで、ご家族の頑張りや献身的な姿に心打たれて、応援したい・力になりたいという気持ちたちが私たちに湧いてくるのではないのでしょうか？

支えあい、寄り添って共に生きる「ぶどうのいえ」は、お互いに意義深い場所だと感じるこの頃です。

「ぶどうのいえ」の主役は、何といても利用なさる方々です。

その方々が快適で心安らぐ施設であるよう、私たちスタッフ一同心をこめて奉仕し続けたいと思います。

利 用 病 院

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
国立がんセンター	6	54	96	87	100	51	31	36	28	26	14	17	22	19	12
東大病院	5	19	21	49	68	63	106	163	151	237	167	125	182	193	161
日本医科大学病院	3	50	49	39	35	44	50	99	99	30	21	31	40	51	30
聖路加国際病院		1	3	9	2	1		1						1	2
順天堂大学病院		14	61	60	31	35	65	21	19	20	21	37	14	11	6
東京医科歯科大病院		5	3	2	4		24	16	15	10	14	13	11	7	6
慶応大学病院		2	1		3	3				5	1	7	3	3	2
東京女子医大病院		9	9	8	16	21	32	24	28	19	16	28	21	11	65
国立小児病院		1	5	1	2	3									
東大医科学研付属病院			6	3	3	19	4		1			1	11	2	
国立成育医療センター			6			1		2	1	2	1	5	18	9	22
帝京大付属病院				4		3					1		1		
瀬川クリニック					1			1	1	1					
癌研付属病院				4	4			1	13	17	9	4			
至誠会第二病院				1											
心身障害児医療療育センター				3				2				1		1	
日大駿河台病院				5	8	1									
東京警察病院				2		4							1		
都立駒込病院				2	2	12		6			7		5	2	1
日大板橋病院				4		1	2	1						2	
東京医科大病院				1	2				15	2	1	1			
慈恵会医大病院				3	3	1		1	4	2		6	8	4	2
榊原記念病院				2				1	1		1	3	2		
虎ノ門病院					3	2	2	2			3				4
昭和大学病院								3				4	2		
防衛大学病院								1							
国立東京病院清瀬								1							
墨東病院		1													
品川中央クリニック									1						
都立広尾病院										2					
国際医療センター										1		1			
東京足立病院											1				
NTT東日本関東病院												1			
杏林大学病院												1	2		
石心会狭山病院													3		
永田小耳症形成外科クリニック													1	3	4
山王病院													1	1	
都立大塚病院														2	
都立松沢病院															1

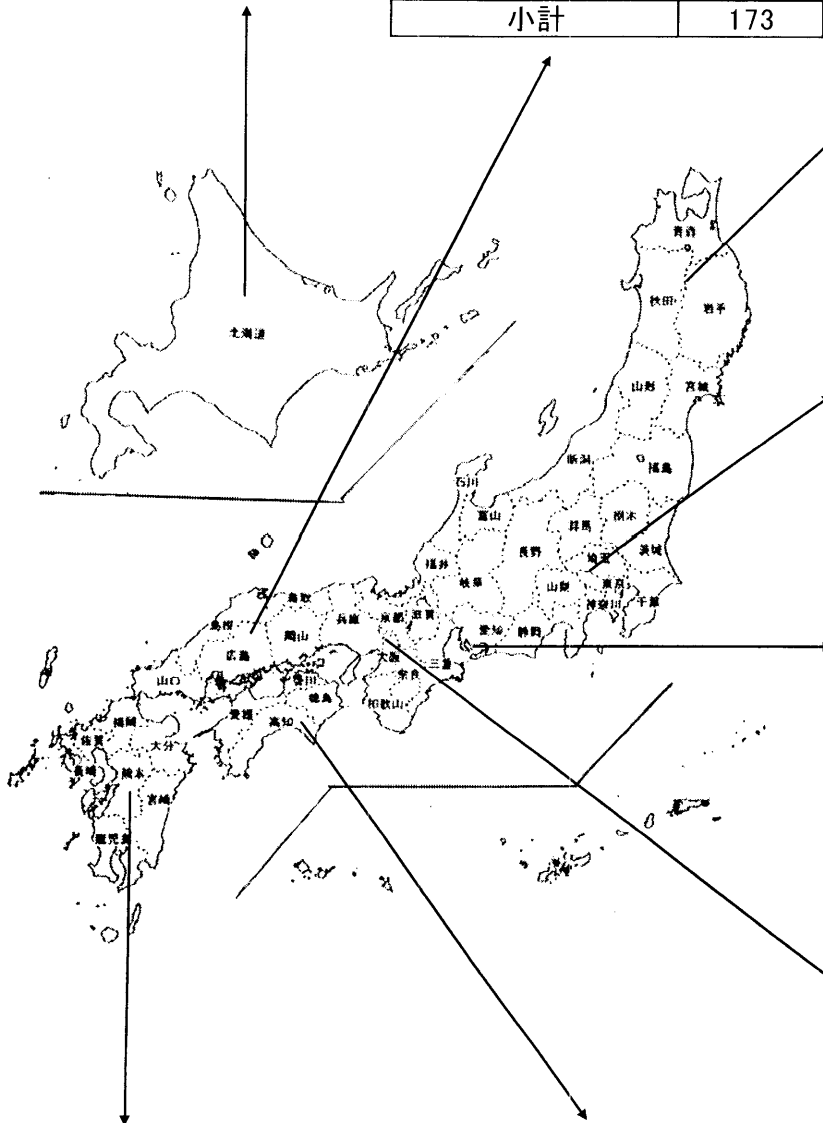
利用者の全国分布図（1995年～2009年）

総合計	
国内	3,503
海外	11
合計	3,514

地域	都道府県	家族数
北海道	北海道	97

地域	都道府県	家族数
中国地方	鳥取	15
	岡山	22
	島根	11
	広島	78
	山口	47
小計		173

地域	都道府県	家族数
東北地方	青森	48
	秋田	104
	岩手	19
	宮城	53
	山形	14
	福島	412
小計		650



地域	都道府県	家族数
関東地方	茨城	203
	栃木	165
	群馬	120
	埼玉	104
	千葉	297
	東京	538
	神奈川	183
小計		1610

地域	都道府県	家族数
中部地方	山梨	51
	長野	221
	新潟	34
	静岡	155
	愛知	34
	岐阜	6
	富山	12
	石川	15
	福井	0
小計		528

地域	都道府県	家族数
九州地方	大分	22
	福岡	51
	熊本	2
	宮崎	19
	佐賀	5
	長崎	5
	鹿児島	27
小計		131

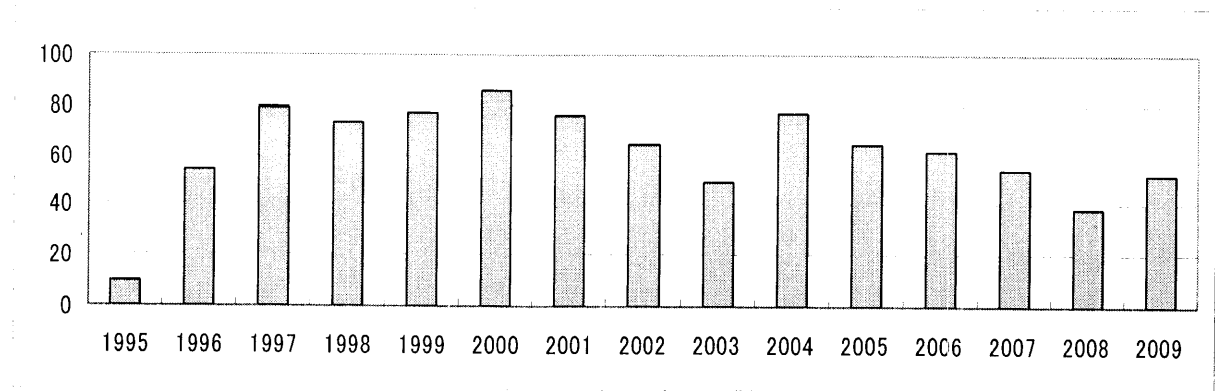
地域	都道府県	家族数
四国地方	香川	18
	徳島	6
	高知	22
	愛媛	12
小計		58

地域	都道府県	家族数
沖縄地方	沖縄	90

地域	都道府県	家族数
近畿地方	滋賀	42
	三重	31
	奈良	18
	和歌山	2
	京都	21
	大阪	33
	兵庫	19
小計		166

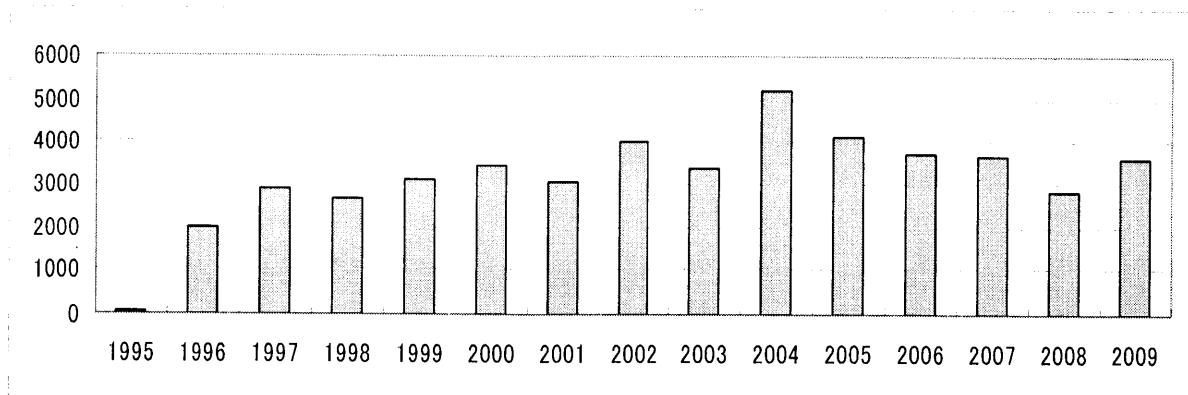
部屋の利用率

年度	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
利用率(%)	10	54	79	73	77	86	76	64	49	77	64	62	54	38	52



年間延べ利用者推移

年度	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
利用率(%)	62	1969	2874	2651	3092	3454	3061	4002	3371	5227	4133	3744	3700	2809	3640



ぶどうのいえ 利用案内

受付時間 チェックイン 午前 10 時～午後 5 時
 チェックアウト 午前 10 時～12 時

共同設備 キッチン・ダイニングルーム・プレイルーム・ランドリー

滞在費用(1 日 1 室)

洋室 シングルタイプ 1 室 一日 1500 円
 和室 1 室 一日 1500 円
 洋室ツインタイプ 8 室 一日 2000 円
 洋室ファミリータイプ 1 室 一日 3000 円
 和室を除き全室バス・トイレ付 冷暖房・冷蔵庫・電話完備

*お気軽にお問い合わせ下さい

★ あいがとうございました

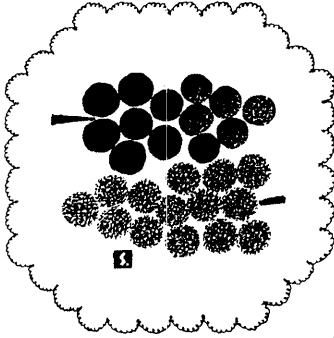
会費・ご寄付の方々

(順不同 敬称略)

毎日新聞東京社会事業団 日立ビアメカニクス(株) 川口美香 渡邊誠 町田朋子 川口美香 岩井久雄 菊地純子 堀楚乃子 大西健之・六生 田崎政司 森村学園福祉 OG 会三浦優子 練馬聖ガブリエル教会 東京聖十字教会 牛込聖公会聖バルナバ教会 横倉正義 川口美香 匿名 山王丸豊子 金田昭三 近藤健一 飯塚俊一 飯塚淳三 織田恵子 姉川博子 テモテ教会ミニバザー 折井利彦 大久保えま子 南良夫 中村昭子 目白聖公会婦人会 匿名 宮尾春世 五十嵐明子 金沢聖ヨハネ教会 富山聖マリア教会 福井聖三一教会 高田降臨教会 大畑喜道・敦子 山田隆久・友子 小金井聖公会食事会 聖アンデレ教会 近澤淑子 東弘彦 匿名 杉山三郎 石井久美子 天野医院天野教之 浦和諸聖徒教会進藤肇 荒牧清美 塩谷惇子 田口公子 石渡康弘 大西健之・六生 林由利 寒河江史子 川島羊子 匿名 立教池袋中学校・高等学校 立教女学院中学校聖書科 山口晋二 百井幸子 福原香 草野宣子 永田文明 鈴木浩二 村山せい子 川口美香 大西健之・六生 椎名貴世 岸まち子 三枝ミツ子 梅沢美和子 大出百合 山田恒子 西田直人・恵子 多田美智子 三井千里 日根野侑子 瀬川宏 川口美香 岸まち子 教区フェスティバル出店 堀江真理子 曾我部清典 八幡たけ子 堀楚乃子 金井玲子 国際ソロプチミスト東京一弥生 渋谷聖ミカエル教会姉妹会 東海林晴子 東海林和恵 宮永勝 佐藤康祐 聖アンデレ教会 渋谷一郎

(2010年3月26日～10月31日)

★ あいがとうございました

- | | | |
|------------------------|-----------------------------|--|
| ☆ 中村秀夫様 | お米 |  |
| ☆ 大久保ゆう子様 | フェースタオル | |
| ☆ 町田朋子様 | お米 | |
| ☆ 鈴木瑠江様 | 缶詰 食料品 そうめん その他 | |
| ☆ 鈴木洋二様 | お米 その他 | |
| ☆ 渡辺紀和様・扶美子様 | テレフォンカード | |
| ☆ 長松康子様 | お米 | |
| ☆ 岡本祐子様 | 切手 お菓子 | |
| ☆ 大西六生様 | 洗剤 | |
| ☆ 森谷篤志様 | お菓子詰合わせ | |
| ☆ 大庭一己様 | お米 | |
| ☆ 鈴木浩二様 | ぬいぐるみ クッキー お菓子 | |
| ☆ 寺井裕美様 | 洗剤 | |
| ☆ 早船広人様 | 缶詰 レトルトカレー スパゲッティなど ダンボール3箱 | |
| ☆ 出光明子様 | パッチワーク用生地をたくさん | |
| ☆ 聖ヨゼフ苑(あしながおじさん)マドレーヌ | | |
| ☆ 花王株式会社 | 洗剤 リンスのいないソフトシャンプー | |

★ バザーのための献品

- ☆ 小杉みどり様 神谷恭子様 関谷隆一様・元子様 樋口里子様 遠藤江美子様 中澤様 石川文子様

衣類、日用品などいただきました。改めてお礼申し上げます。

ご支援のお願い！

日頃のご支援を感謝いたします。

ぶどうのいえは滞在費収入と皆様からのご支援により運営されています。

平成 22 年 1 月 1 日以降の皆さまのご寄付には 2,000 円を越える額に免税措置が適用されます。

来年度に向けて、振替用紙を同封させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

募集しています！

☆運営委員

ぶどうのいえの運営に参加して下さる方を募集しています。運営委員は総会での発言権があります。

☆ボランティア

受付業務や掃除などさまざまな仕事があります。

月曜日～土曜日まで 曜日や時間は相談に応じます。

*どちらも詳しくはぶどうのいえまでお尋ね下さい。

後 記

「ぶどうのいえだより」は、夏の 8 月号を休ませていただき、今回、15 周年記念号として拡大版をお届けします。秋の夜長、読書の時間にでもゆっくりお読み下されば幸いです。

この号から A4 サイズに変わります。大きくなって記事も増え、読み応えのある「たより」にしたいと一同、張り切っております。

今後とも、皆様とぶどうのいえをつなぐ大事な手段として、心して編集したいと思います。

どうぞよろしくご愛読下さるようお願いいたします。

担当：金井 西田 堀内

認定 NPO 法人 ぶどうのいえ

ホームページ

<http://www.budounoie.jp/>

E-mail

info@budounoie.jp

郵便振替口座名 特定非営利活動法人ぶどうのいえ

郵便振替口座番号 00120-2-540161